

特集あとがき

今回の所報では、交通政策の新たな潮流として、IBS のプロジェクトにおいても積極的に取り組んでいる IT（情報技術）を取りあげ、特集を組みました。

これら取り組みは、交通調査、政策評価指標の改善、行動データの効率的収集など、計画技術の向上を目指すものであり、交通計画における IT の役割は、今後益々重要になるものと考えられます。

* * *

研究論文に先立って掲載しました鼎談「交通政策の課題と IT の活用」では、大別すると次のような意見が示されました。

①IT の進歩と計画サイドのニーズ

進歩の著しい IT を交通計画にどのように活用できるかということが先行し、交通計画サイドにおけるニーズに関する議論が後追いになっているのではないか。

②IT の活用と交通計画

IT の先進的な活用方法は様々考えられるが、実際に計画に活用しようとする、制度や企業間のルールなどが時に障壁となる場合がみられる。

③計画サイドのニーズとプライバシー

計画サイドとしては、例えば移動体の時々刻々の位置情報へのニーズが高いが、一方で個人のプライバシーの問題に抵触する恐れがある。

④IT の活用可能性

①～③のような課題を抱えながらも、IT は、より適切な政策評価、公共交通の利便性向上、高齢社会への対応、さらに持続可能な社会を実現していくための重要な手立てとなる。そのためには、IT を使う人や使い方について十分な議論が必要である。

* * *

次に掲載しました研究論文では、IBS における IT 分野での取り組みとして、移動体通信技術を活用し

た交通調査の改善、IT を活用した政策評価指標の改善、マルチモーダル情報が交通行動に及ぼす影響分析や所要時間の研究、CALS の研究が示されました。

前記の鼎談で示された課題との関係で整理すると、次のような論点が整理されます。

①の「IT の進歩と計画サイドのニーズ」については、これまで評価指標として用いることの少なかった渋滞損失、ドライバーの疲労度、環境評価指標等の取得可能性が示され、交通計画への活用可能性が示された。一方で、計画サイドのニーズを今後整理していく必要がある。

②の「IT の活用と交通計画」の関連については、現状では IT を交通調査、計画に適用する事例は多くはなく、制度等の整備も十分ではないため、引き続き IT の活用事例を増やしていくことが重要である。

③の「計画サイドのニーズとプライバシー」については、交通計画の役割・重要性についての市民の理解を得る努力を続ける必要がある。

* * *

以上の特集全体をふまえ、IT の活用は既に、交通調査・計画への適用段階に入っていると考えられ、今後は、適用事例を増やししながら、計画サイドのニーズを的確に反映した活用方法、交通計画への適用方法を検討すべきであると考えます。

最後に、交通計画のさまざまなニーズに対する IT の活用可能性が大きいことは間違いなく、交通計画の IT 分野において IBS が先進的・先導的な役割を担うべく、今後とも先進的な研究・調査活動に取り組んでいくことをあらためて決意して、特集を締めくくりたいと思います。

(編集委員会)